

墨田区名誉区民

五街道雲助

師匠

墨田区に三人目の名誉区民が誕生しました。

墨田区本所生まれの落語家・五街道雲助師匠です。

江戸の古典落語を復活させ、江戸弁で演じる芸が高く評価され

令和五年に、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されています。

<略歴>

- 1968(昭和43)年 十代目 金原亭馬生師匠に入門する
- 1972(昭和47)年 ニツ目に昇進し、「六代目 五街道雲助」と改名する
- 1981(昭和56)年 真打に昇進する
- 2010(平成22)年 平成21年度(第64回)文化庁芸術祭優秀賞を受賞する
- 2014(平成26)年 平成25年度(第64回)芸術選奨文部科学大臣賞を受賞する
- 2016(平成28)年 紫綬褒章を受章する
- 2023(令和5)年 重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される
- 2024(令和6)年 墨田区名誉区民となる
第41回浅草芸能大賞を受賞する

墨田区名誉区民とは

公共の福祉を増進し、又は学術・技芸等の進展に寄与した方であって、その功績が卓絶し、広く区民の尊敬を受けるとともに、墨田区の名を高めていただいた方です。
こうした方の事績をたたえとともに、区民の敬愛の対象として永く顕彰するものです。
区では、2010(平成22)年に福岡ソフトバンクホークス取締役会長の王貞治氏と押絵羽子板職人の西山幸一郎氏を顕彰しています。



王貞治氏



西山幸一郎氏(故人)



五街道 雲助 氏

落語界で四人目の人間国宝に

落語は江戸時代に生まれた話芸です。人情噺や可笑しい噺、ときには怪談噺などを、一人で演じます。登場人物が何人出てきても、一人で演じ分けるのですから日々の研鑽が必要です。子どもになったり、大人になったり、持ち物は扇子と手ぬぐいだけ。あとは身振り手振りで演じます。五街道雲助氏は江戸の古典落語を復活させ、江戸風情あふれる語り口で独自の芸を作り上げました。

五街道雲助 著「雲助、悪名一代」より



雲助師匠、教えてください!!

墨田区立寺島中学校には、区内で唯一落語研究部があります。
雲助師匠から部員のみなさんが、落語のアドバイスをいただきました。

—「時そば」を練習しています。どうしたらリアルなしぐさができますか？

そばの食べ方で区別ができますよね。とびきりおいしい蕎麦だったら、勢いよくそばをすすするようにすればいいし、そうでない蕎麦だったら、たとえば、太くてぐじゃぐじゃしている蕎麦を食べるようにすればいい。蕎麦の使い分けでも、登場人物の性格が出てくることがありますね。



— 親子のはなしをするとき、どうしたら親子特有の仲の良さを出せますか？

普段の口調で出てくるんじゃないですかね。仲が悪かったらそっけないような返事になるし、仲良かったらなついてくるような調子になるし。それで区別ができるんじゃないかね。

— 落語をしている最中に、いちばん意識していることはありますか？

噺家ってのは演じるんですが、100%頭の中で演じるほうにいつてしまうと間違えちゃったりするんです。だから80%ぐらいにして、後の20%は「次のセリフはこう言わなくちゃいけないんだな」という、ディレクターの部分があったほうが良いような気がします。

詳しくは
墨田区公式
YouTube
チャンネルで!



すみだは落語のまち

落語では、江戸に住む人々によく知られた場所が舞台になっています。隅田川にかかる橋だったり、両国の花火見物や回向院の相撲見物の様子なども、数多く登場します。

● 文七元結(ぶんしちもっとい)

身投げをしようとした若者を助けるために金を差し出すが、その金は……。人情噺の傑作の一つ。身投げをしようとした橋が、吾妻橋です。

● たがや

両国橋の上で大立ち回りをする、職人と殿様のあらそいを描いた噺。落語の舞台を巡ると、さらに落語が身近に感じられます。